

令和7年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学

代表学生：浜地 雅人

指導教員：倉光 英樹

研究題目 (応募部門)	令和6年能登半島地震後の防災井戸の水質と地域活用体制の構築 — 富山県の地下水資源の持続可能な地域活用への貢献—
研究概要	令和6年度能登半島地震では、北陸地方の広い範囲で上下水道施設が損壊した。防災井戸は災害直後の重要なライフラインのひとつであるが、県民にはその存在が浸透していない。本研究では、富山県が管理する防災井戸を対象に水質調査を実施し、我々学生が主催する市民向けイベント（富山大学サイエンスフェスティバル）で、地下水保全の重要性に加え、地域の防災井戸を有効活用することで被災地域の生活を支援するモデルケースを提示する。本研究により、県民に広く防災井戸の存在とその重要性が如何に地域の自立的な防災対策として重要であるかを知ってもらうことで、富山県の地下水資源の持続可能な活用の実現に貢献する。
これまでの活動状況と 今後の活動予定 (300字程度)	富山県が設置する県内10箇所の防災井戸において、水質調査（pH、濁度、電気伝導度、塩化物イオン、溶存態窒素・リン・有機炭素、大腸菌群）を実施した。その結果、多くの井水は生活用水としての基準を満たしており、災害の応急給水源として使用可能な水準であった。 さらに、本研究成果を広く県民に周知するため、富山大学理学部主催のサイエンスフェスティバルにブースを出展し、防災井戸を活用した地域防災力強化の指針を提案した。同時に、地下水質に関する理解を深める活動を通じて、地下水保全の重要性を啓発するとともに、災害時における防災井戸の役割と地下水資源の持続可能な地域活用の必要性を訴求した。
当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。	富山大学主催のサイエンスフェスティバルに参加するだけでなく、県内の高校で防災井戸をテーマとした授業も展開する予定である。



写真1 サンプリングの様子



写真2 井戸水の分析（全有機体炭素）の様子



写真3 富山県内に設置されている防災井戸（あさひの郷公園）